

【63】小中居神明神社

小中居(こなかい)の神明神社は、西側の集落の通りの中ほど、水田に張り出すように鎮座しています。お伊勢参りをした人が、お札を持ち帰り小祠を建立したのが始まりといわれています。境内には、富士塚があり浅間神社が祀られ、幕末期の富士山信仰を物語っています。境内末社として、稲荷社、牛頭天王社、金比羅社が祀られています。



西側の水田地帯からは、鎮守の杜と屋敷林とが連続して見え、沖積平野の農村集落の典型的な景観を形づくっています。

【64】古谷から南古谷に広がる田園風景

川越線に沿った古谷から南古谷にかけては、遙かかなたまで電柱一本ないという広大な水田が広がっています。

水田のかなたには、連なる屋敷林がエッジとなって青空と一線を画しています。この実りの台地が古尾谷庄13か村に富をもたらし、古尾谷八幡神社の荘厳な社殿から見て取れる繁栄を支えました。



【60】古尾谷八幡神社とほろ祭

貞観4年(863)に慈覚大師円仁が京都の石清水八幡宮を分祀したのが始まりと伝えられる、古尾谷庄13か村の総鎮守です。元暦元年(1184)に源頼朝が、弘安元年(1278)に藤原時景が社殿を造営しています。天正5年(1577)



中筑後守藤原資信が再建した二間社流造が現在の旧本殿です。現社殿は、権現造りで享保7年(1722)に再建されました。

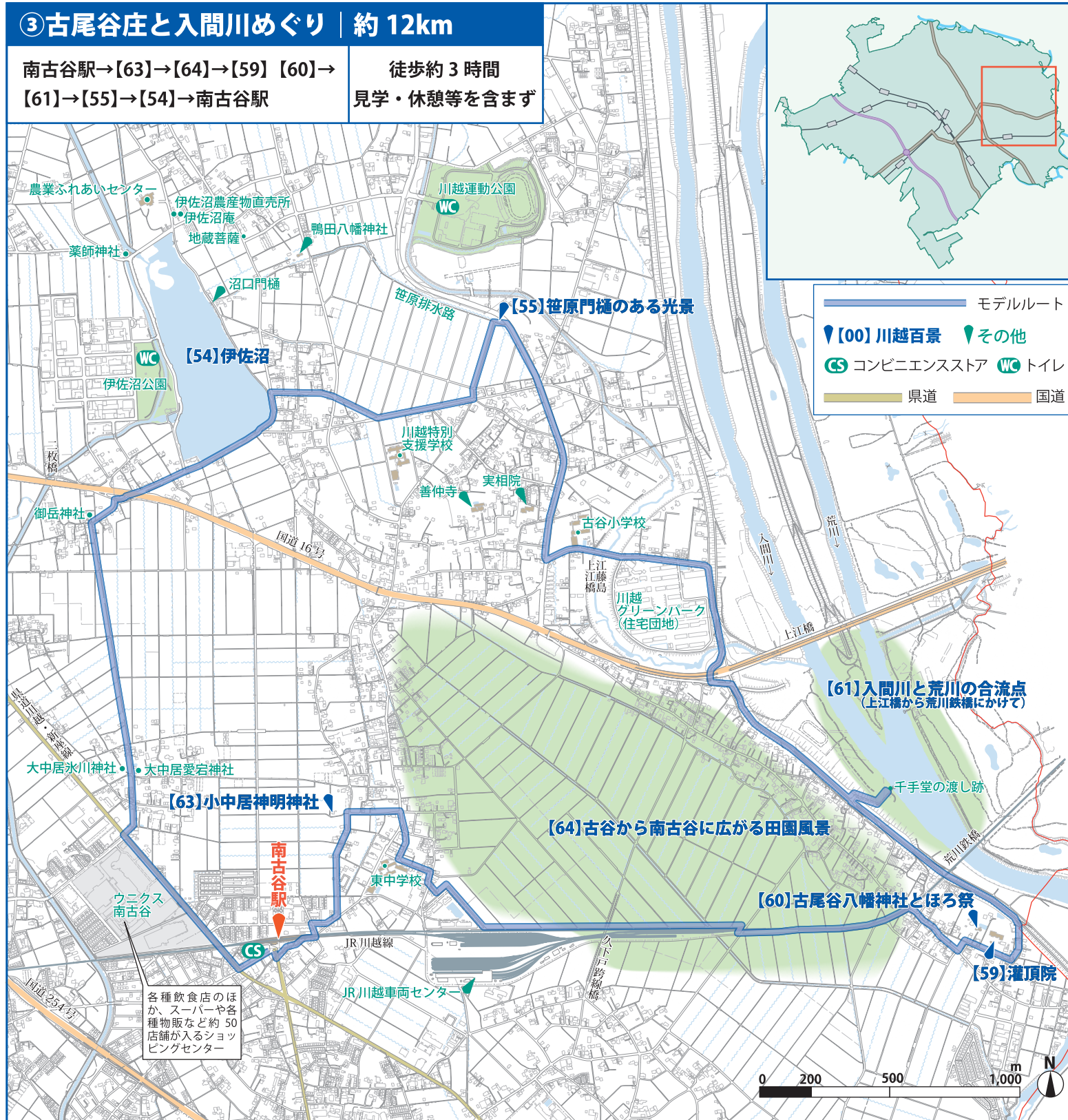


ほろ祭は、現在は敬老の日の前日の日曜日に行われている行事です。ホロとよばれる背負子を男児が担ぎながら神輿渡御のお供をします。これらの社殿や行事は、県指定無形民俗文化財になっています。

③古尾谷庄と入間川めぐり | 約12km

南古谷駅→【63】→【64】→【59】【60】→【61】→【55】→【54】→南古谷駅

徒歩約3時間
見学・休憩等を含まず



【59】灌頂院 天台宗／寶聚山東漸寺灌頂院

天長年間(824~834)に慈覚大師円仁の開創と伝えられる古刹です。江戸時代には、古尾谷八幡神社の別当を務め、搭頭6院を持つ大寺でした。山門は、間口三間という規模の大きい薬医門で、当寺で最も古い18世紀前期の建築と推定されています。また、朱に塗られた鐘楼門は古尾谷八幡神社から移築されたといわれています。本堂等は、天保3年(1832)の火事後の再建です。なお、お守りしている仏像群は、平安時代末から鎌倉時代の作といわれ、県指定文化財になっているものもあります。古尾谷庄の実力をうかがえる寺院です。



J R川越車両センター 主に埼京線・川越線・八高線の車両を受け持っています。例年10月には「川越車両センターまつり」が開催され、敷地内部が一般開放されます。

千手堂の渡し跡 大宮と川越を結ぶ川越道の交通の要所でした。荒川を渡る渡しは、老袋とこの千手堂の渡しの2か所しかなかったため、賑やかだったと思われます。

実相院 天台宗のお寺で、もとは灌頂院の末寺でした。1727年檀家によって新鑄された梵鐘があり、鐘楼の天井には歌仙絵が描かれています。



【61】入間川と荒川の合流点(上江橋から荒川鉄橋にかけて)

上江橋からJRの鉄橋にかけては、入間川と荒川に挟まれた「背割堤」が設けられ、雄大な河川景観を見せてくれます。またそれぞれの橋からは、秩父の山並みを背景に川越の市街を一望できます。また、さいたま市側の対岸の河川敷はゴルフ場として利用されています。



【55】笹原門樋のある光景

伊佐沼東岸の中ほどに、沼口門樋があります。本体は、凝灰岩の堰柱と花崗岩の笠木、側壁と翼壁はイギリス積の煉瓦造で、明治38年(1905)竣工の市指定文化財。ここから笹原排水路(八幡川)が流れます。水路に沿って下ると鴨田の八幡神社があります。本殿は、千鳥破風と軒唐破風を持つ一間社流造で、市指定文化財です。



さらに下り、旧入間川の堤防だった道沿いにあるのが、笹原門樋です。アーチ型の杭門、橋梁の親柱をイメージした2つの小尖塔を持つ煉瓦造で、明治34年(1901)に竣工しました。面壁天端部分にはデンティルという歯状飾りがあります。設計は埼玉県の技師である野村武で、煉瓦は深谷にあった日本煉瓦製造株式会社の旧煉瓦製造施設で焼かれました。

【54】伊佐沼

伊佐沼は、埼玉県内の自然の湖沼では最大の面積を有します。古尾谷氏の家臣の伊佐氏が沼を浄化し、溜池としたことが名前の由来で、もとは新河岸川の源流でもありました。



本来は、農業用の灌漑用水ですが、湖沼に恵まれない川越にとっては貴重な水辺景観であり、昔から紅白の蓮の花が水面を彩るころ、あるいは月の美しい季節には多くの人々がこのほとりを訪れます。かつては、川越一大宮間を結んだチンチン電車(川越電気鉄道、後の西武鉄道大宮線)が沼ペリを通っていました。

善仲寺 曹洞宗寺院の善仲寺は、中筑後守資信が、主君古尾谷信秀のために創建、僧性翁慶守が開山したといわれています。もとは鎌倉幕府の御家人古尾谷氏の館で、数少ない鎌倉期の館跡として貴重です。



大中居氷川神社 クスノキをはじめ桜やヒノキなど多くの木々に囲まれた境内には、浅間大神の小山や境内社、遊具などがあります。

大中居愛宕神社 地域で「愛宕様」として親しまれています。鳥居のすぐ隣に植えられた桜や、ヒノキや曼珠沙華なども、季節ごとに境内を彩ります。